

**2019年3月期
第2四半期 決算説明会**

2018.12.10



カーリットホールディングス株式会社

CODE : 4275

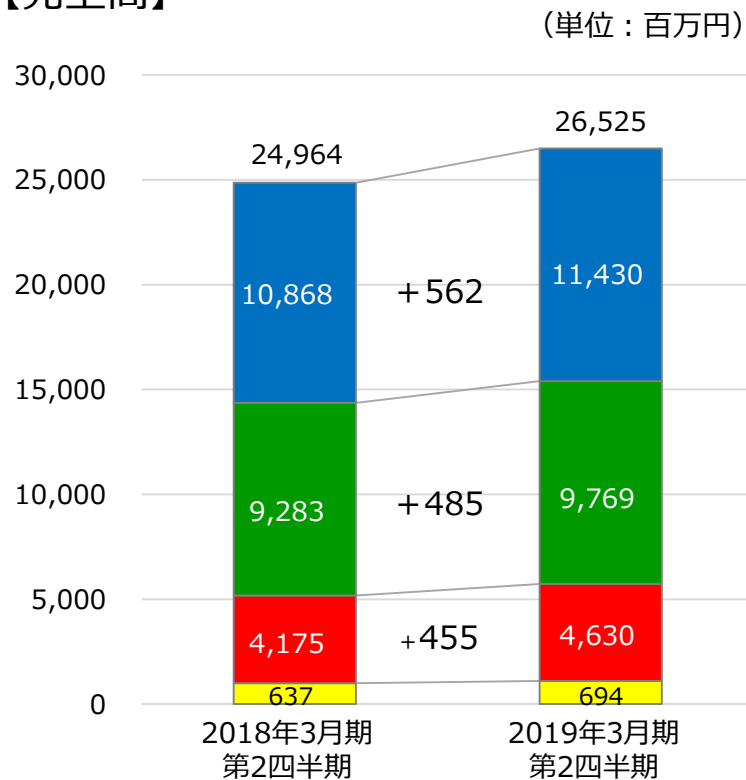
1. 2019年3月期第2四半期 決算概要
2. 2019年3月期 通期見通し
3. 今後の注力分野

2019年3月期
第2四半期 決算概要

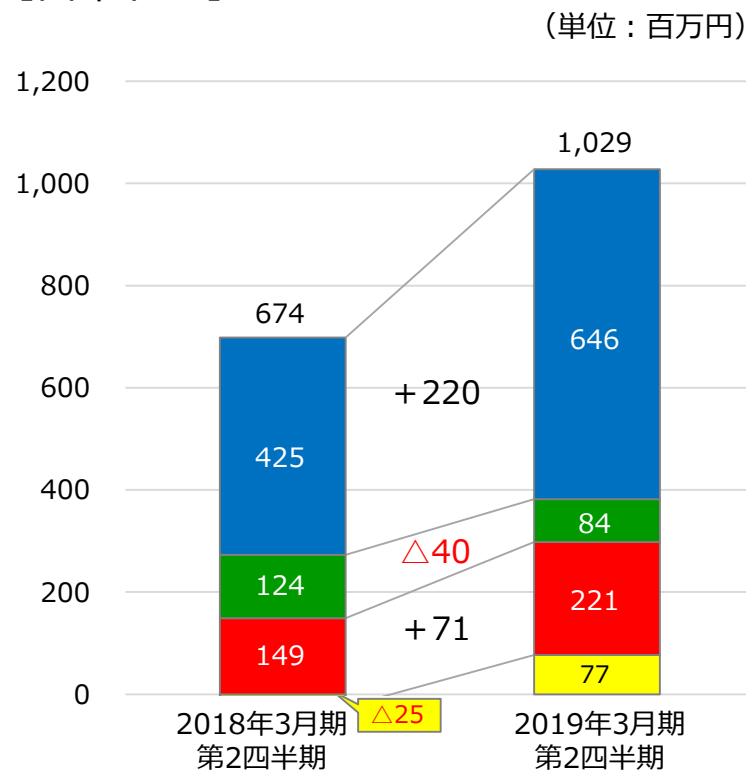
(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期 実績	2019年3月期 第2四半期 実績	差異 増減率
売上高	24,964	26,525	1,561 6.3%
売上原価	21,106	22,247	1,141 5.4%
販売費及び一般管理費	3,183	3,248	64 2.0%
営業利益	674	1,029	355 52.7%
経常利益	777	1,161	384 49.5%
純利益	518	726	207 40.1%

【売上高】



【営業利益】



■ 化学品 ⇒ 増収増益 (受託評価・電子材料・セラミック材料増販)

■ ボトリング ⇒ 増収減益 (コストアップ=燃料費・輸送費)

■ 産業用部材 ⇒ 増収増益

(シリコンウエーハ=価格改定・生産効率向上による収益改善、
耐火・耐熱金物=新規・更新案件増加)

■ その他・消去

2019年3月期 通期見通し

(単位：百万円)

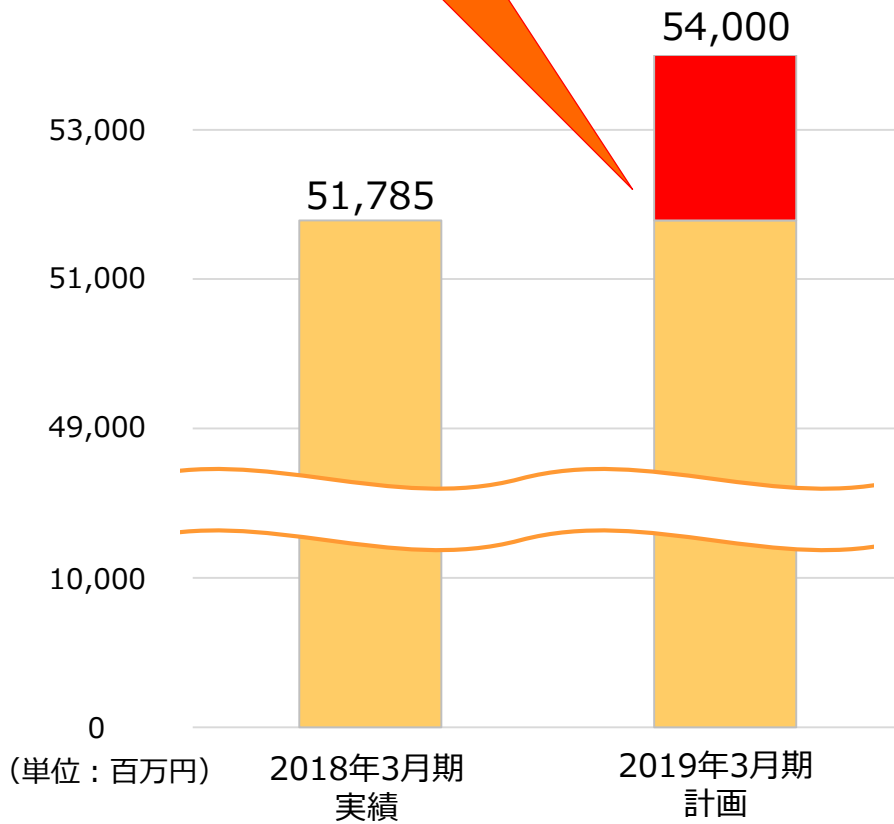
	売上高			営業利益		
	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期予想	差 異	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期予想	差 異
化学品	22,565	24,000	1,435	1,084	1,380	296
ボトリング	19,298	19,200	△98	592	460	△132
産業用部材	8,418	9,000	582	231	410	179
報告セグメント計	50,282	52,200	1,918	1,908	2,250	342
連結合計	51,785	54,000	2,215	2,028	2,400	372
			経常利益	2,176	2,500	324
			純 利 益	1,506	1,500	△6
			配 当 (1株あたり)	12円※	12円	0

※創業100周年記念配当2円を含む

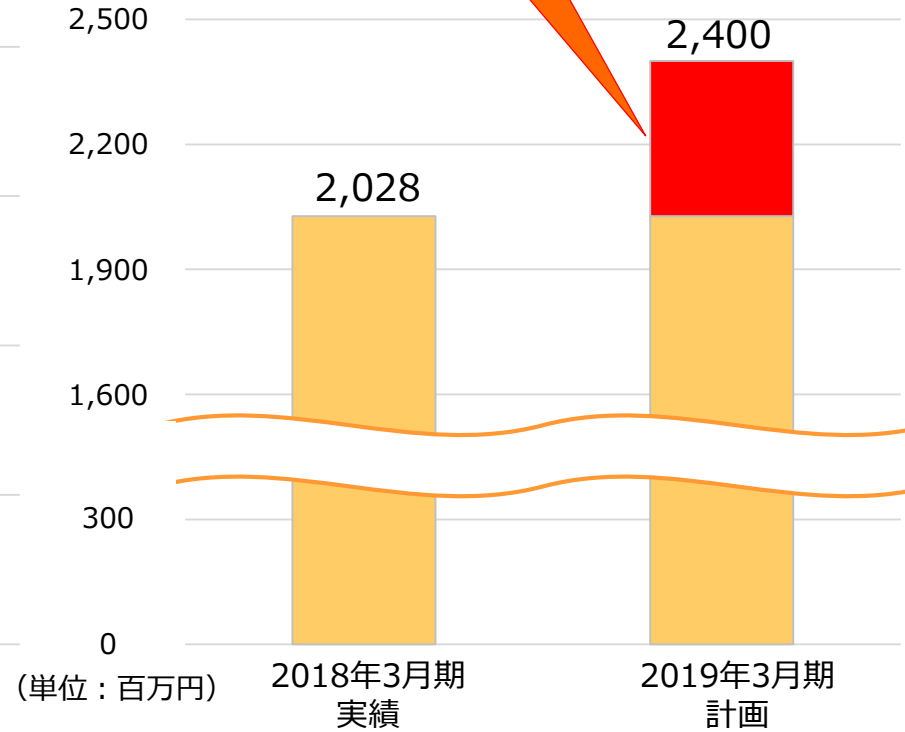
通期見通し

<増収・増益計画>

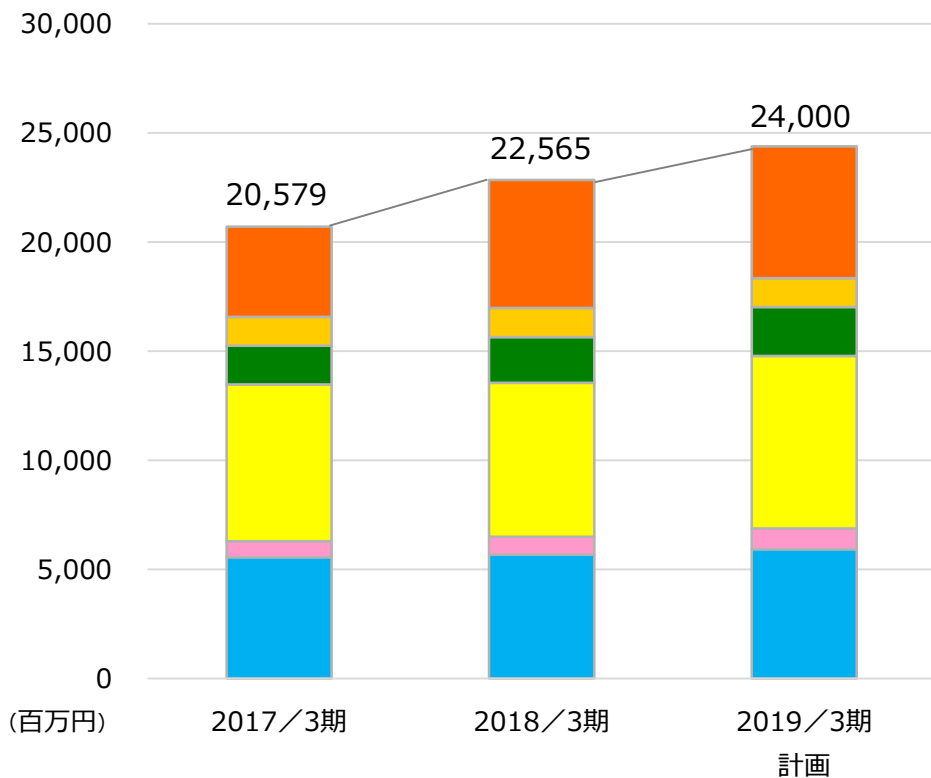
産業用爆薬、発炎筒、受託評価、プラント、
研削材、シリコンウェーハ、耐火・耐熱金物、
商社部門等の増収

【売上高】


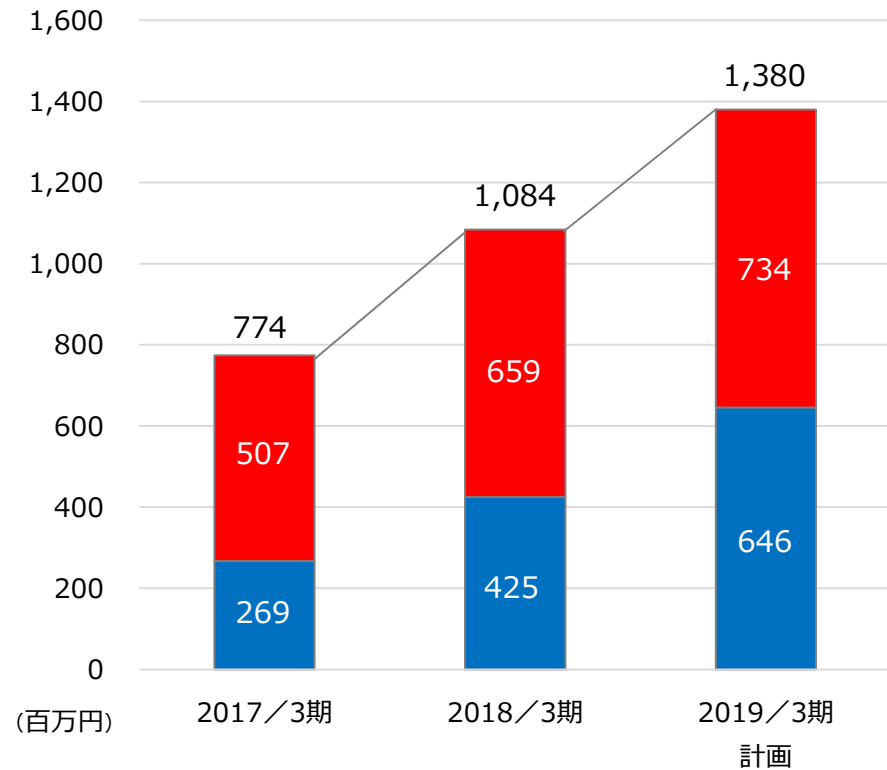
発炎筒、受託評価、
シリコンウェーハによる増益

【営業利益】


【売上高】



【営業利益】







■ 化薬
 ■ 受託評価
 ■ 化成品
 ■ 電子材料
 ■ セラミック材料
 ■ その他

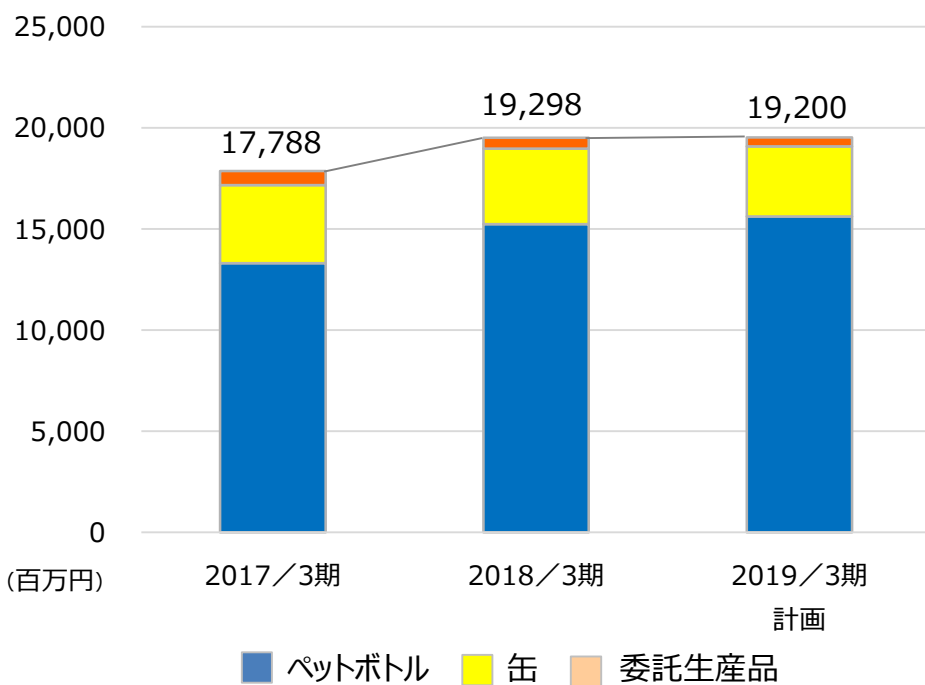
■ 上期
 ■ 下期

【分野別動向】

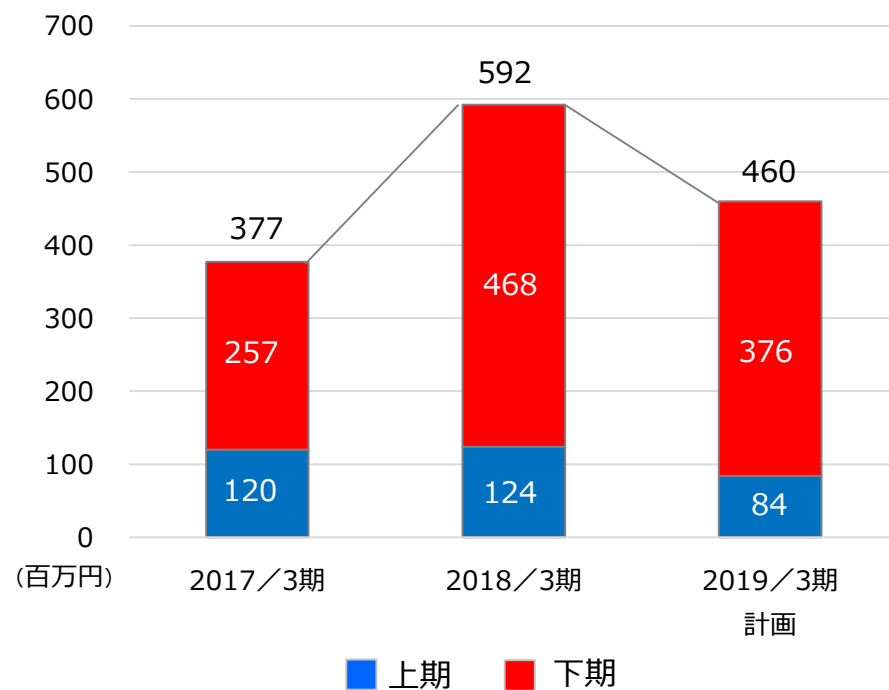
分野	製品	売上変動要因	状況・施策	上期実績	通期見通
化 薬	産業用爆薬	砕石・土木工事案件数	上期・下期とも増販		
	発炎筒	国内自動車販売台数 車検台数	新車向け・車検向けとも上期微減 下期は回復見込		
受託評価	危険性評価試験 電池充放電試験	顧客のLiB開発状況	設備増強 高い稼働率を維持		
化成品	塩素酸ナトリウム	紙パルプ需要	シェア維持・拡大		
	過塩素酸アンモニウム	H II ロケット打ち上げ数	堅調		
	電極・プラント類	浄水・水処理施設需要	増加見込		
電子材料	電子材料	コンデンサ・キャパシタ需要	ドライブレコーダー・建機・通信基地等への採用好調		
	機能材料	帯電防止剤需要	減販		
セラミック材料	研削材・研磨剤	国内砥石メーカー動向	需要堅調・チャイナリスク回避による増販		
その他	商社部門				

製 品	売上変動要因	状況・施策	上期実績	通期見通
ペットボトル製品	生産能力 夏季の気温	猛暑による需要増加 生産品種の増加		
缶製品	コンビニコーヒーの拡販 ペットボトルコーヒー飲料の普及	漸減		

【売上高】

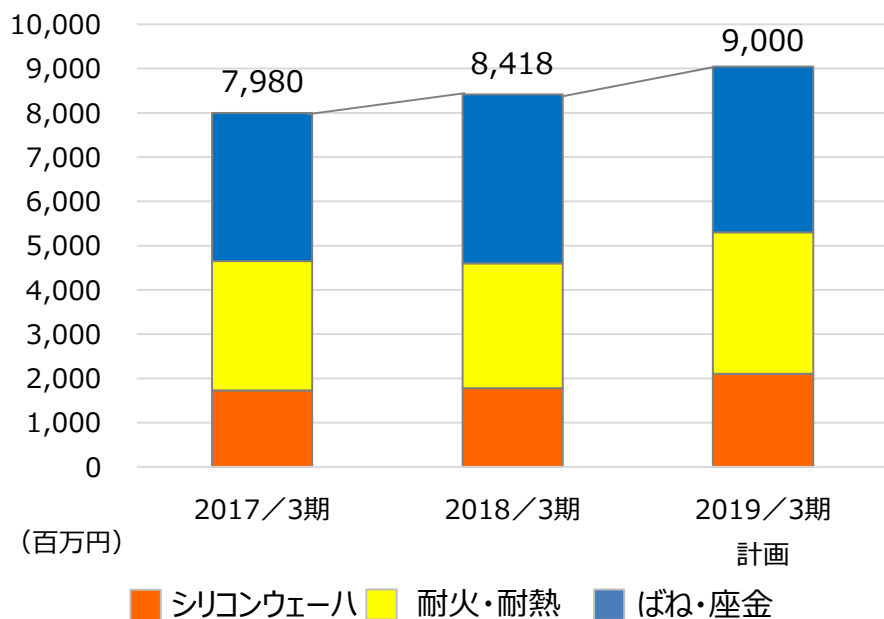


【営業利益】

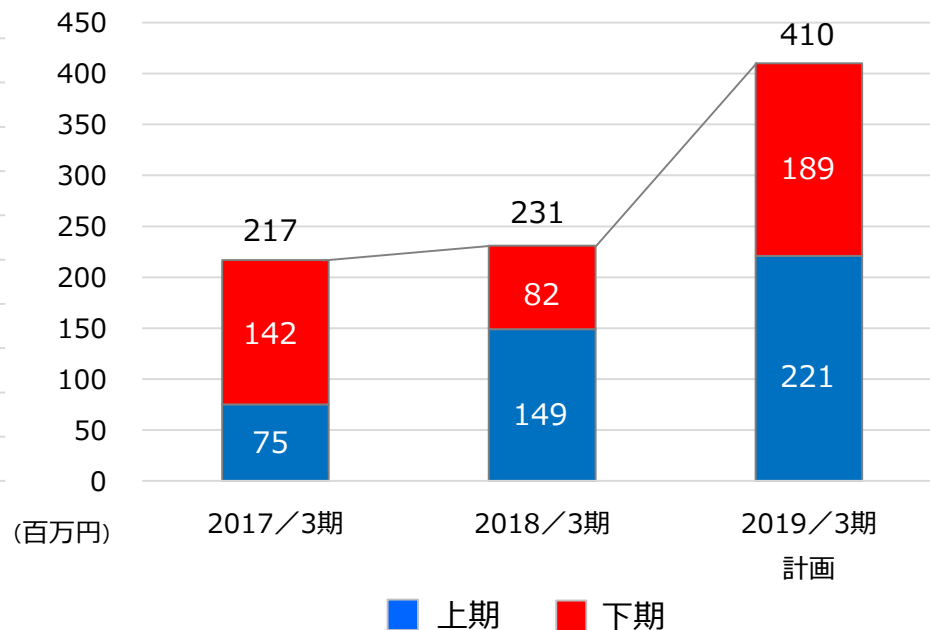


製品	売上変動要因	状況・施策	上期実績	通期見通
シリコンウェーハ (シリコンテクノロジー)	半導体市場	市場は継続して好調 価格改定継続 新製品売上計上 (ゲルマニウム精製)		
耐火・耐熱金物 (並田機工)	炉 (焼却・製鉄・セメント) の 新規・更新動向	新規・更新案件増加		
ばね・座金 (東洋発條工業)	自動車・建機の生産台数	販路拡大・建機の市場環境好調継続		

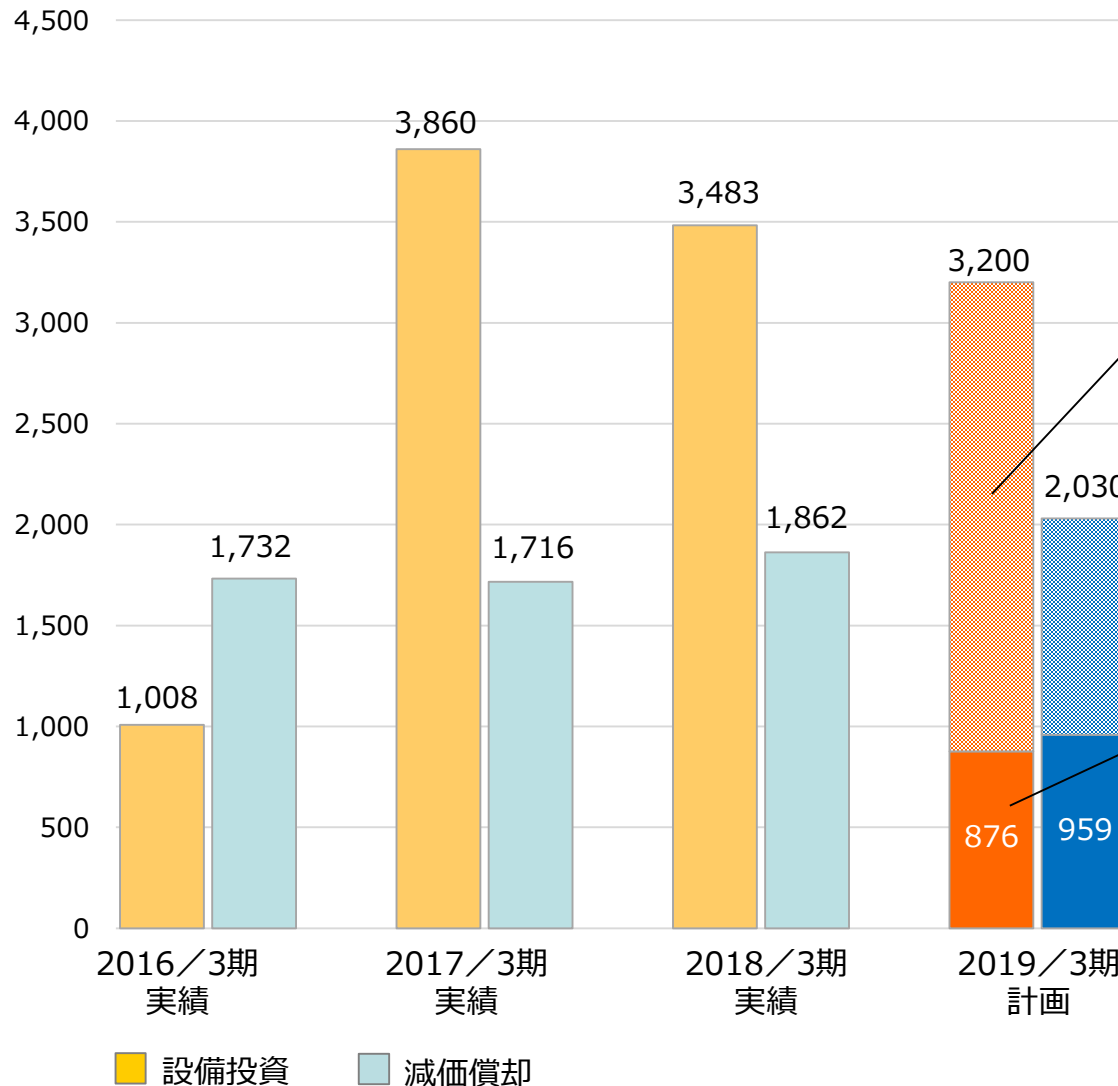
【売上高】



【営業利益】



(単位：百万円)



設備投資予定 下期

化学品

化成品関連建屋設備更新 約3億円

産業用部材

シリコンウェーハ生産設備更新 約2億円

開発

推進薬研究施設二期工事 約8億円

設備投資実績 上期

化学品

受託評価試験設備増強 約1億円

ボトリング

ペットボトル飲料製造設備更新 約2億円

今後の注力分野

2021年度を最終年度とする
3カ年の中期経営計画



既存事業に加え新規事業の創出を加速
2024年度 企業規模2倍へ

発炎筒

現状

車検交換向けは、ガラス破碎具付き「スーパーハイフレイヤープラスピック」への切替率30%程度



切替促進による
利益性の向上



スーパーハイフレイヤープラスピック

受託評価

現状

リチウムイオン二次電池の開発活況により
危険性評価試験・電池試験とも堅調に推移



設備増強・一貫受注体制
構築による更なる受注増



電池試験所

電子材料

現状

コンデンサ需要増加に伴う好調継続
ドライブレコーダー・建機・通信基地局向けの増販



AI化含め、自動運転化を
見据え、車載電子部品向け
への拡販



ドライブレコーダー（製品イメージ）

ボトリング

現状

夏の猛暑により需要は好調
燃料・輸送費の増加に伴う利益性の低下
ペット飲料の大容量化（600ml）による
生産効率の低下



新規設備増強投資
生産効率向上による
利益性の回復



製造ライン

シリコンウェーハ

現状

半導体市況の活況による高稼働継続
光学レンズ材料商品化



高付加価値ウェーハ開発等による
安定利益体質構築



シリコンインゴット

2021年度を最終年度とする
3カ年の中期経営計画

新規事業

宇宙
環境エネルギー
ライフサイエンス
新規機能・半導体材料

既存事業
化学品
ボトリング
産業用部材

次期中計

次々期中計

2018年度

2021年度

2024年度

既存事業に加え新規事業の創出を加速
2024年度 企業規模2倍へ

研究体制

宇宙開発事業

ロケット推進薬の研究開発で宇宙開発をリードする



©JAXA/三菱重工

二次電池関連事業

次世代電池の研究開発でエネルギー問題に貢献する



高エネルギー
研究所

環境エネルギー
研究所

開発
企画室

ヘルスケア材料

バイオリファイナリー製品による健康で快適な生活を作る



ライフサイエンス
研究所

新材料技術
研究所

新規機能材料
半導体材料

ユニークな機能性素材でIT社会を支える



マーケティング・プランニング

関連市場のマーケティングを強化し、各研究テーマのフォローや新規研究開発テーマの立ち上げ等を行う

特許知財グループ

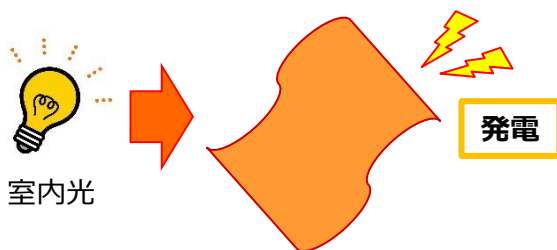
契約、知財管理・特許出願

環境エネルギー分野

次世代電池・キャパシタ用材料開発

有機（色素増感）太陽電池

室内の光で発電
曲げられる、薄くて軽い

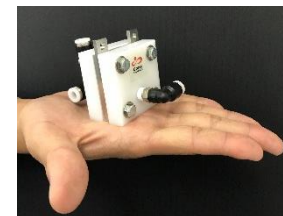
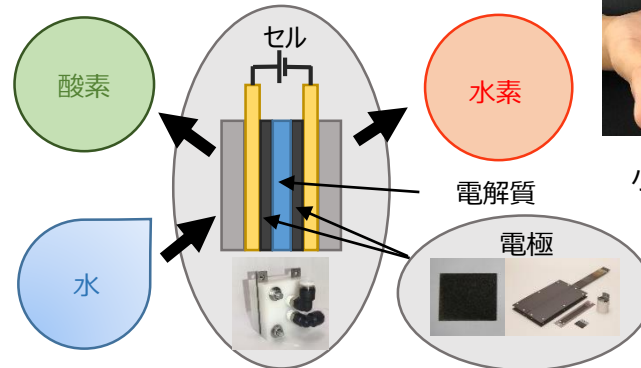


電解液

用途：電子ペーパー、IoT、センサー

- 有機（色素増感）太陽電池向け電解液の開発
- 信頼性のある電池特性試験・評価と部材開発
- 危険性評価試験を利用した新規電解液開発

電極・電解技術の開発



小型水素発生セル

- 電気分解式
小型水素発生セルの開発
- 水素発生デバイスへの応用
(エネルギー、洗浄用途)

新規機能材料分野

半導体材料分野

新規電子材料製品開発

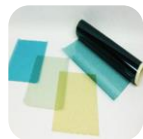
半導体製造用研磨剤分散液開発



コンデンサ



感光ドラム



近赤外吸収フィルム

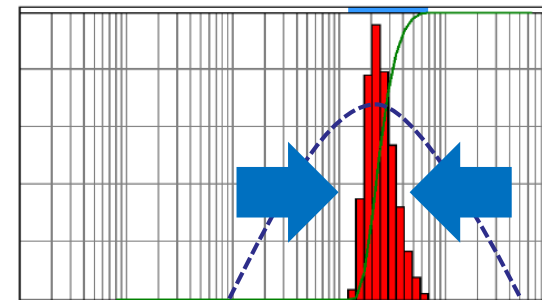


帯電防止フィルム

有機合成
技術



研磨剤分散液



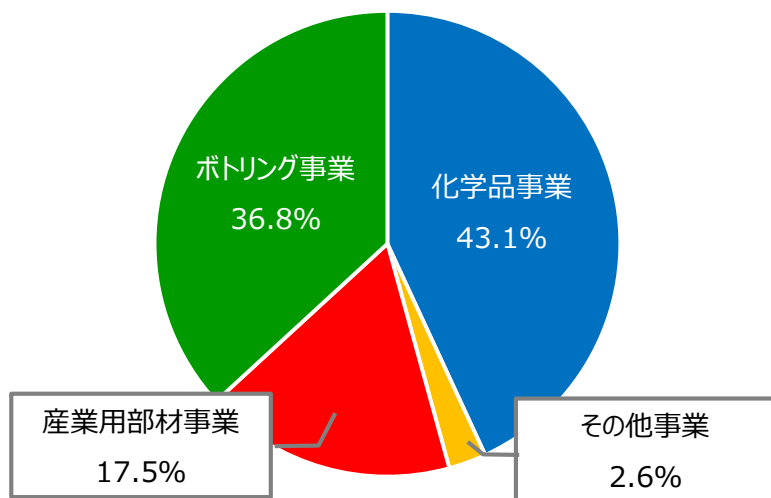
粒度制御

- ❑ 車載用低損失電解コンデンサ材料の開発
- ❑ 近赤外線カット用色素材料の開発
- ❑ 紫外光感光体用色素材料の開発
- ❑ 帯電防止イオン導電材料の開発

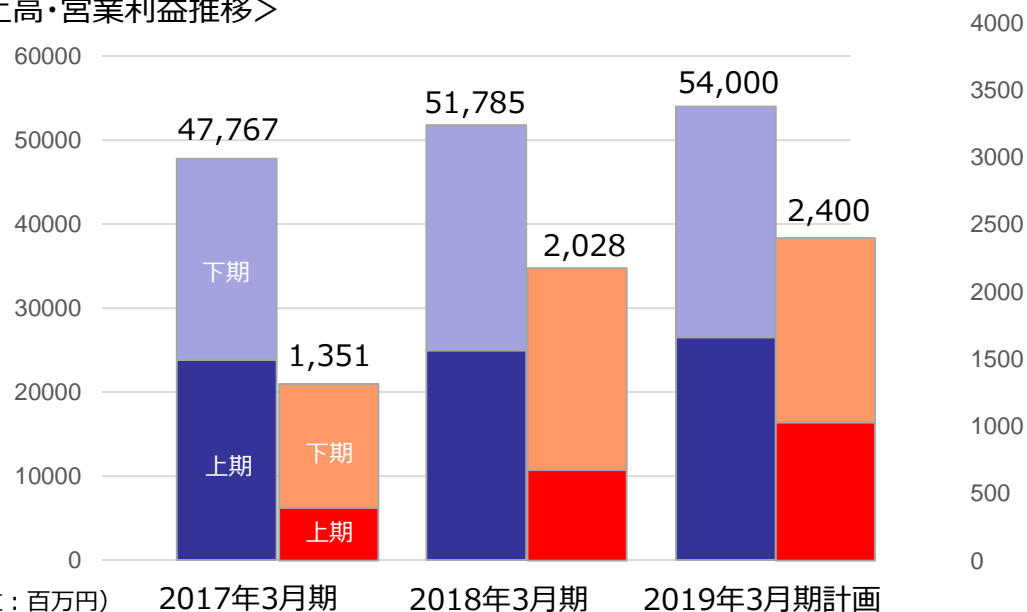
- ❑ 研磨剤微粒子分散液開発
- ❑ 粒度制御技術開発
- ❑ 超平坦表面および端面用研磨テープ技術開発

本 社	東京都中央区京橋一丁目17番10号	代表者	代表取締役社長 廣橋 賢一
創 業	1918年	設 立	2013年10月 1日
資本金	2,099,530,000円	従業員数	1,093名 (連結)
発行済株式数	24,050,000株 (1 単元100株)	単元株主数	25,860名

<2019年3月期第2四半期 売上高構成比>



<売上高・営業利益推移>



(単位：百万円)

	201年 3月31日	2018年 9月30日	差異		2018年 3月31日	2018年 9月30日	差異
資産の部				負債の部			
現金及び預金	4,316	4,451	134	支払手形及び買掛金	8,092	7,714	△378
受取手形及び売掛金	13,674	13,090	△584	有利子負債	9,565	10,325	760
棚卸資産	4,215	4,635	419	その他負債	8,826	9,281	455
その他流動資産	735	917	181	負債合計	28,519	28,234	△285
有形固定資産	21,453	21,338	△114	純資産の部			
無形固定資産	337	214	△123	株主資本	21,908	22,344	436
投資その他の資産	9,474	10,388	914	その他の包括利益 累計額等	3,780	4,456	675
				純資産合計	25,688	26,801	1,112
資産合計	54,208	55,035	827	負債純資産合計	54,208	55,035	827

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,034	2,356
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,246	△ 1,458
財務活動によるキャッシュ・フロー	11	△ 700
現金及び現金同等物の増減額	△ 205	197
現金及び現金同等物の期首残高	4,131	4,222
現金及び現金同等物の期末残高	3,925	4,420

IRに関するお問合せ先：
カーリットホールディングス株式会社
広報部
電話：03-6893-7060
メール：pr@carlit.co.jp

本資料は当社の事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は決算データ・会社データについては断りのない場合は2018年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された見通し等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

